

「持続可能なまちづくりに向けた「つながり」づくりの活性化について」

(答申)

令和5年3月3日

令和3・4年度 掛川市社会教育委員会

目 次

はじめに	2
I 諮問（研究テーマ）について	3
II 地域社会を取り巻く背景	4
1 社会環境の著しい変化	4
2 社会教育を取り巻く環境の変化	4
3 子供たちを取り巻く環境の変化	5
III 新型コロナウイルス感染症による影響	6
IV 掛川市の「つながり」に着目した地域社会・社会教育の現状と課題	8
1 社会教育委員からの意見集約	8
2 地域社会を担う人々のつながりづくり事例の調査	11
3 「つながり」に着目した地域社会の課題の整理	13
V 持続可能なまちづくりに向けた「つながり」づくりの活性化にむけて	14
1 地域への期待	14
2 学校・園への期待	15
3 行政への期待	16
おわりに	17
掛川市社会教育委員会活動報告（令和3・4年度）	18
掛川市社会教育委員名簿	24

はじめに

これまで、掛川市社会教育委員会では、「家庭教育力の向上と取組強化のための実践的手法について（平成 27・28 年度）」「家族の多様化に対応した家庭教育支援のあり方について・家庭教育支援活動の拡充方法について（平成 29・30 年度）」「地域学校協働活動の充実について（令和元・2 年度）」と提言し、活動してきました。

令和 2（2020）年に入り、世界各国で広がり始めた新型コロナウイルス感染症は、日本にも大きな影響を及ぼし、公共施設の休館、学校・園の休業、商業施設の休業・時短営業、デジタル化の加速・・・など、社会の在り方は大きく変化しました。

その影響により、人と会うことが、とても難しくなっています。社会では、在宅勤務や外出自粛の要請により、打合せも、おしゃべりもオンラインで行うことが増えました。また、学校ではマスク着用の影響もあり、授業での話し合い活動や給食、遊びの場でも制限を受けています。概して、人とのコミュニケーションを取る方法が大きく変わってきているといえます。

地域においても同じようなことが言えます。年に 1 回の定例総会が紙面評決になったり、サロンの交流の会も自粛となったりしています。地域では人と人の「ゆるやかなつながり」が大切だと言われてきました。この「ゆるやかなつながり」は、ちょうどよい関係を保ってきました。それは、祭りに代表される地域のイベントだったりし、また、子供を地域の宝物と位置づけ、青少年健全育成と防犯に努めてきています。さらに、大規模災害を目の当たりにして、地域での防災意識の向上とその取組は「つながり」の構築にも役立っています。

しかし、今回の新型コロナウイルスへの対応を機に、「つながり」が大きく変わりつつあります。それは「つながりの多様性」といえるかもしれません。一口に「つながり」といっても多様であり段階もあります。また、人と人の間だけでなく、人と環境、人と組織、また、今を生きる人と過去の人の間などにも同様につながりがあります。

コロナ禍でたち切れ寸前となっている「人とのつながり」は、この状況だからこそ価値が高まっているのではないのでしょうか。

掛川市が推進している「協働によるまちづくり」の構想が途切れることなく、住民が自分たちの地域に誇りと愛着を持ち、支えあい、強い絆を感じる地域が実現するためにも、もう一度「つながりづくり」に焦点を当て、地域を活性化できるように願っています。

掛川市教育委員会では、コロナ禍における身近な現状を把握し、人と人、世代と世代、組織と組織などの「つながり」に着目して、持続可能なまちづくりに向けた「つながり」づくりの活性化について社会教育のあり方を検討することとしています。

今回の答申が、持続可能なまちづくりの活性化に向けた一助となれば幸いです。

I 諮問（研究テーマ）について

『 持続可能なまちづくりに向けた「つながり」づくりの活性化について 』

当委員会は掛川市教育委員会から、上記テーマについて諮問を受けました。

研究テーマの選定理由（掛川市教育委員会）

少子高齢や人口減少、人生 100 年時代の到来の中、SDG s に即した観点から、持続可能なまちづくりを目指して、多様な取組が市内で行われています。

持続可能となるためには、地域社会で育てられた子供たちが成長して地域を支える人材となる「つながり」づくりが大切です。地域の大人が子供たちに文化活動やスポーツを教え、社会人となった教え子たちが地域の指導者となるような循環はその一例となります。

また、地域にいる人材が共に行動する中で絆を築いていく「つながり」づくりも大切です。個人の生きがいづくりが、仲間と出会う中で輪を広げ、地域のイベントを彩っている様子を見かけたこともあると思います。

また、コロナ禍の中の活動制約や孤独の苦しさから「つながり」が注目され新たな評価をされています。

一方、学校では、子供たちの可能性を引き出すべく、個別最適な学びと協働的な学びを展開させており、ICTを活用しながら「創像力・創合力・創律力」の3つの力の育成を進めています。

家庭や企業等においても、コロナ禍を契機に、オンライン学習やWEB会議におけるコミュニケーションなど、新しい技術を活用した学び、距離を超えた連携が顕著になっており、学びの変化や多様な主体の連携深化といった新しい動きが生まれています。

持続可能なまちづくりを行うため、コロナ禍を超えて希望を取り戻すため、新しい動きと連動しながら、地域社会における「つながり」づくりを活性化できないでしょうか。

元来、中学校区学園化構想などの社会活動やコミュニティづくりにおいて、地域社会のつながりの輪を広げる中で、類似の関心を持つ者同士の協力、異なる意見を持つ他者との対話や論議が生まれ、相互に理解し認め合うことによる自己肯定感や幸福感、「つながり」意識感などが醸成されてきました。「つながり」づくりの活性化は、市政が大切にする対話の推進であり、社会教育活動やコミュニティづくりの活性化とも言えます。

掛川市社会教育委員会の皆様には、対象（地域・家庭・学校等、子ども・大人・高齢者・社会的弱者等）、担い手（行政、市民活動等）等の視点から、地域社会における「つながり」づくりの活性化のポイントや策について、調査研究をお願いします。

Ⅱ 地域社会を取り巻く背景

1 社会環境の著しい変化

今、日本社会は、技術革新の急速な進展、激しく変動する人口動態、多発する自然災害、グローバル化による価値観の多様性などにより、現在社会の変化は極めて複雑で予測不能な状況直面しているといえます。また、少子高齢化、人口減少、核家族化、近隣関係の減少傾向に加え、生活様式の多様化もあり、地域社会における人と人とのつながりの希薄化が進行しているといえます。

そんな中、令和2年1月に新型コロナウイルス感染症による国内初の感染者が確認され、さらに2月27日には政府から学校への一斉臨時休業が要請され、連動して各地公共施設も休館、そして、4月には緊急事態宣言が全国に拡大されました。

このことは、社会全体はもとより、いままで築いてきた地域における「つながり」を停止させ、人々に閉塞感や孤独感を植え付けました。それぞれの人生をより豊かにすることができる営みを担ってきた地域社会が大打撃を受けたといえます。

2 社会教育を取り巻く環境の変化

平成30年12月21日、中央教育審議会は「人口減少時代に新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」において、地域における社会教育の意義と果たすべき役割を『社会教育』を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりとし、新たな社会教育の方向性として、「開かれ、つながる社会教育の実現」を掲げています。

さらに、学校現場には、「社会に開かれた教育課程」や「地域学校協働活動」の法制化など、社会や地域住民との思いの共有、多様な主体との連携・協働により子供たちの学びを進めていくことの方方向性がより明確にされてきています。

地域に目を向けると、人々との付き合いが疎遠になり、地域コミュニティが衰退しており、高齢者や困難を抱えた親子などが地域で孤立するという深刻な状況が生じています。また、家庭や家族が多様化し、三世帯世帯が減少する一方で、ひとり親家庭など地域行事等への参加が少ない人々が増加していることも地域コミュニティの衰退に拍車をかけているとの指摘があります。

そうした中、東日本大震災や熊本地震などの大規模災害をきっかけとして、人々の安心・安全な暮らしを守るための日常的な「絆づくり」の必要性が認識されています。地域の「絆」は、災害時における「助け合い」においても、復興期における地域コミュニティの再生においても重要な役割を果たしています。また、地域の防災活動の見直し・発展へとつながりつつあります。

社会教育には、その活動を通して人と人との交流を促進し、地域に新たな価値をもたらすような「仕掛け」づくりを進めることで、地域コミュニティの再生・活性化に

貢献することが期待されています。また、災害からの復興期において、子供たちの学習や体験活動等を支え、地域コミュニティの再生に寄与していくことも、社会教育に期待される大切な役割です。

3 子供たちを取り巻く環境の変化

現在、児童生徒数の減少や多様化・複雑化する社会状況の変化等を背景に、小中学校の再編や、高等学校の再編・統合が進んでいます。今後、少子化の更なる進行により、学校の小規模化に伴う教育上のデメリットの顕在化や、学校がなくなることによる地域コミュニティの衰退が懸念されており、各市町村の実情に応じた活力ある学校づくりの推進が求められています。

また、地域社会や家庭を巡る問題が深刻化している中、多様な価値観を持った人々との交流や体験の減少などを背景として、子供たちの規範意識や社会性、自己有用感等に対する課題、生活習慣の乱れによる学習意欲や体力・気力の低下の課題等が指摘されています。さらに、子供の貧困問題、ヤングケアラー問題等、新たな課題も浮き彫りになってきました。

その一方で、社会貢献への高い意欲や、柔軟で豊かな感性と国際性を備えている一面も見受けられるなど、子供たちは、未来をつくっていく主役として大きな可能性に満ちており、自らがこれからの未来を創り出していくという主体性ととともに、その可能性を最大限引き出し、開花させていくことが求められています。

学校を取り巻く環境に目を転じると、いじめや暴力行為等の問題行動の発生、不登校児童生徒数、特別支援学級・特別支援学校に在籍する児童生徒数等の増加等、多様な児童生徒への対応が必要な状況となっているなど、その環境は複雑化・困難化を極めており、教員だけで対応することが難しくなっています。また、子供が自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の充実など、授業改善を図っていくことが求められています。

学校現場では、学校評議員、学校運営協議会、学校関係者評価の制度化等により、地域住民や保護者等の意見を学校運営に反映させる仕組みの構築が推進されてきましたが、子供たちの育成の視点、学校運営の改善・充実の視点からも、地域との一層の連携・協働が課題となっています。

Ⅲ 新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの日常生活に大きな変化をもたらしました。なんといっても、感染対策として、物理的に人との距離をとることが必要となり、さらにマスクの着用で、人とつながることが難しい状況になりました。また、経済的にも大きな影響が生じ、飲食業や観光関連業を中心に需要が大きく減少したことで社会全体に閉塞感が蔓延しました。

学校の臨時休業や、公共施設の休館等は、児童生徒のみならず一般市民の学習活動にも大きな影響を与えました。

地域社会においても、極力接触を避けようとする動きから、地区の会合が中止になったり、恒例行事（伝統行事）中止になったりと大きな影響がみられました。

対応策として、ICT 技術の活用により、社会的距離を保ちながら遠隔地との距離を埋める取組が徐々に展開されてきているものの、家族や社会とのつながりの重要性を再認識するようになり、全般的に生活満足度が低下しています。

《新聞記事 令和4年4月21日 静岡新聞》

『子育て「コロナで変化」7割』

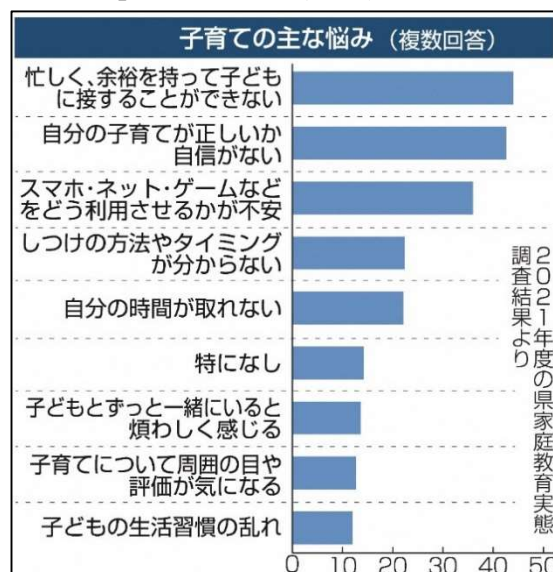
→ 「コロナ禍で家事・育児への向き合い方などの意識に変化があった」と答えた人は約7割に上った

【記事の内容】

静岡県教育委員会が令和3年度に乳幼児の保護者を対象に実施した家庭教育の実態調査によると、「コロナ禍で家事・育児への向き合い方などの意識に変化があった」と答えた人は約7割に上った。選択肢の複数回答では「家族と過ごす時間を大切にするようになった」と答えた人が最多で、45.5%いた。「特になし」の26.5%に続き、「子供の話をよく聞くようになった」が20.2%、「家事・育児の役割分担が増えた」が18.9%と続いた。

子育ての悩み（複数回答）では「忙しく、余裕をもって子供に接することができない」が最多の44.0%。「自分の子育てが正しいか自信がない」の42.6%に続き、「スマートフォン、インターネット、ゲームなどをどう利用させるかが不安」との回答が36.0%と、乳幼児期からICT機器の適切な使い方に悩む保護者がいることが分かった。

調査は、新型コロナウイルス禍や社会の変化を踏まえた家庭教育支援のニーズを把握するため県教委がインターネットで行い、6歳以下の乳幼児を育てる保護者1,721人が回答した。社会教育課は「保護者が子育ての情報収集でインターネットを頻繁に使う傾向も見られたため、オンラインの家庭教育講座なども検討したい」としている。



《渋江かさね氏講演 令和4年7月29日》

令和4年度小笠地区社会教育委員研修会（7月29日開催）で、静岡大学教育学部の渋江かさね氏が、『アフターコロナの地域活動と社会教育委員』と題して講演を行ってくださいました。

内容は、新型コロナウイルス感染症が地域活動に与えた影響を社会教育の観点から分析し、ウィズコロナ、アフターコロナでの地域活動における多くの指針を示してくださいました。

《講演内容の抜粋》

“地域活動への影響”

- 中止や延期となった地域活動のトップは、「お祭り、体育祭、文化祭などの地域イベント」多数が集う難しさ。集うことで生まれるつながりや学びが減少。

“社会教育・生涯学習施設への影響”

- 緊急事態宣言発令で、高齢者施設、体育施設が順次休館となり、社会教育施設やコミュニティ施設なども利用停止と広がった。
- 緊急事態宣言解除後は、ガイドライン等が整った施設・事業から順次再開となり、「新しい生活様式」を踏まえた対策が各施設で行われた。

“コロナ過での地域活動の展開と課題”

- 困っていることは、今までのようにできない。
- 止めない理由は、顔を合わせないと疎遠になる。
- 活動する上での工夫は、時間の短縮ややり方の工夫。→オンラインの公民館
- 久留米市では、オンライン公民館の誕生。多彩な企画。参加者はZOOM上で交流。コンセプトは、「距離を保つ時代に、心の距離がぐっと近まる」。
- 課題は、インターネットの環境が整っていないと対応できない。オンラインへの過剰な苦手意識もあり、フォローもまだ不十分。

“コロナ禍における地域活動の課題”

- 開催の判断と感染防止対策。
- コロナに対する地域の人たちの受け止めの違い。
- 今までの活動をいかに維持するか。または見直すか。見直すポイントは、大切にしていること、実現したいことは何か。
- 新しいニーズの発掘と困り感への対応。

“コロナ禍における社会教育のあり方”

- 人と人の新たなつながりを考え、提案することが社会教育委員の使命。by 伊丹市
- 人にとって「人とのつながり」は、生きがいを持ち、健康に楽しく生きる上でとても大切なこと。
- 対面での活動や交流が困難な時に「オンラインミーティングツール」を新しいつながり方の一つとして活用することにより、一人でも多くの人々が「人とつながる」ことができ、これまで以上に社会教育・生涯学習活動が豊かなものになる。

Ⅳ 掛川市の「つながり」に着目した地域社会・社会教育の現状と課題

1 社会教育委員からの意見集約

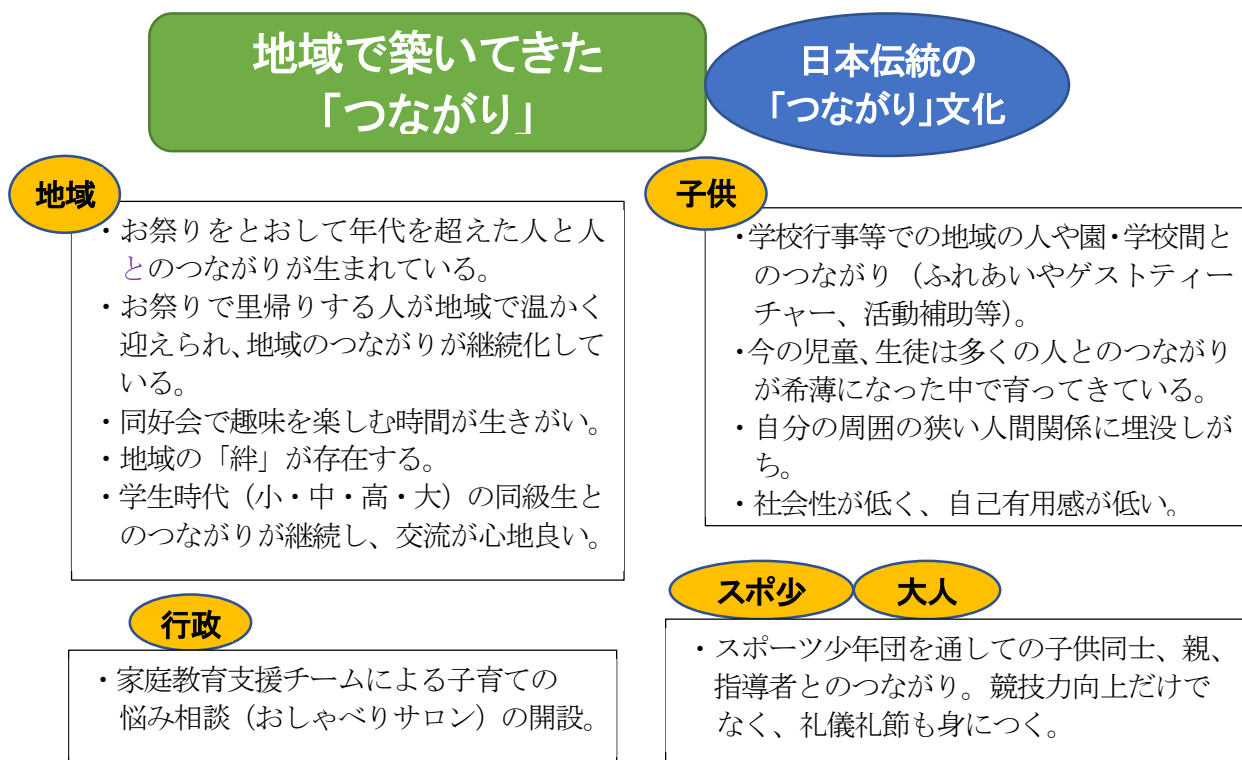
令和3年度の第2回社会教育委員会（8月26日実施予定）は、静岡県から新型コロナウイルス感染防止のため緊急事態宣言が発令されたことを受け、会場開催を取りやめ、委員の皆さんから意見集約（書面開催）をすることになりました。意見の集約方法は、『意見収集シート「つながり」について』に記入していただき、正副委員長及び事務局で整理・分析し、第3回社会教育委員会で協議しました。

以下が質問項目とその集約の内容です。

質問項目

- ① あなたの身近で大切にしたい「つながり」は何ですか？
- ② なぜその「つながり」を大切にしていきたいのですか？
- ③ あなたが大切にしたい「つながり」をなくさないために、どんなことが必要だと思いますか？
- ④ 「つながり」を広めたり発信したりするためには、どのような方法があると思いますか？
- ⑤ あなたがお話を聞いてみたい活動、見てみたい活動がありましたらご記入ください。

《提出された意見集約シート一覧から見てきたもの》



コロナ禍による 停滞

「つながり」への 影響・時代背景

- ・活動制約や孤独の苦しさ。
- ・祭りも含めほとんどの自治活動が中止となった。
- ・地域のつながりが以前にましてさらに希薄になってきている。
- ・人との付き合いが制限され、社会からの孤立感や寂しさを感じる。
- ・学校と地域との連携がストップ。開かれた学校に踏み出せない。
- ・社会のあらゆるところに歪やストレスが生まれている。
- ・今までのつながりが希薄化しているため、子育てが孤立して「孤育て」となっている。

「つながり」の 再構築へ

「つながり」の 定義とメリット

- ・個人にとっての人とのつながりは、人とのやりとりの方法が変わろうとする一方で、変わらないと確信できるもの。
- ・変化の大きいこれからの社会で、人とのつながりが心の健康や幸せを保つことを助けてくれる。
- ・人とのつながりやそこから得られるサポートは、個人の心の健康を支え、次に踏み出す力をくれる。
- ・人とのつながりが、個人の「新たな挑戦を支える」働きがあり、必要な時に手助けや励ましをくれる親密な関係があることが、個人の新たな挑戦や発見、成長を促す。
- ・人とのつながりが、自分の殻を破り、新たな情報を手にする有益な手段になる。
- ・つながりを再構築するためには、多少なりとも煩わしさも覚悟する必要がある。

「つながり」づくりの方策

地域

- ・地域の女性たちのつながりを活性化させる。
- ・同じ趣味での集まりや活動は、自分の居場所づくりとなり、様々な相談ごとの解決の場ともなる。
- ・地域のつながりづくりには「お互い様」の精神が必要。
- ・あいさつでつながり。相手の笑顔に喜びを感じる。
- ・人間は一人では生きていけない。周りに多くの仲間がいて、話し合い、助け合い、協力し合っていくことが大切。
- ・世代を超えたつながりを意図的に創っていく。持続可能な社会づくり。
- ・農業体験、食育活動、販売企画等とおして地域の活性化を図る。

学校・園

- ・PTA役員を通してのつながり。同じ年代の子供を持ち、同じ地域で一緒に活動できた仲間とのつながりが心地よい。
- ・地域の方から児童、生徒に「ありがとう」の言葉が返ってくるつながりを作ることによって自己有用感が高まる。
- ・地域の方々と連携して行う社会課題解決型探究学習の導入。
- ・学ぶことを自分の力とするとともに、他のために役立ち、助け、教え繋いでいく知の継承・伝承と位置づけさせる。

行政

- ・コロナ終息後、つながりの再構築がされると思うが、地域格差が生まれる。行政の手助けも必要。
- ・防災では自助、共助、公助の地域のつながりが大切。再スタートには公的な後押しが必要。
- ・子育て支援の切れ目のないサポート。関係機関との連携。

子供支援

- ・地域の中で育つ子供。子供にも周りに支えられているという実感を味わわせる。
- ・子供の貧困対策を総合的に推進する。

家庭支援

- ・家庭と地域のつながりの再構築で学校と保護者間のトラブルの複雑化（悪化）を防ぐことができる。
- ・子育てが一段落した家庭の地域とのつながりと地域への貢献を促す方策を考える。
- ・子育ての悩み相談ができる仲間づくり。

お祭り

- ・お祭りは地域の暮らしを安心安全にすることに役立つ。
- ・地域伝統行事の伝承には、その行事の歴史（いわれ）も含め伝統行事として受け継いでいく。
- ・年代を超えての人のつながりが生まれる。
- ・お祭りで里帰りする人も含め地域の絆ができる。

防災

- ・防災活動を通して、互いに信頼し合い助け合うつながりづくりが生まれる。
- ・防災には女性の視点が欠かせない。
- ・防災では自助、共助、公助の地域のつながりが大切。再スタートには公的な後押しが必要。
- ・学校での防災教育の大切さ。

アフターコロナ と ウイズコロナ

「つながり」 再検討 再構築の チャンス

《 研究テーマの柱 》

- 人との「つながり」の価値を再確認する。
 - ・ストレスを軽減できる。
 - ・キャリアの見通しが持ちやすくなる。
 - ・新たな挑戦を支えられる。
 - ・自己有用感アップにつながる。
- つながりをつくることで、自分が楽しむ。大人が楽しむ、子供も楽しむ。
- 若者・女性を含めた多世代による地域のつながり再構築が大切。
- ウイズコロナとアフターコロナ。ウイズコロナへの対応策も今は重要。
- つながり格差を解消するために、個人と政策にできることがある。

2 地域社会を担う人々のつながりづくり事例の調査

事例1 横須賀地区 祭礼文化から生まれた若者たちの挑戦

意見集約の結果をもとに、令和3年度第4回社会教育委員会では講演会を実施しました。講師には深谷義弘氏（三社祭礼囃子保存会会長）を招聘し、『祭りとともに「まち」を支える若者たち』をテーマにお話をいただきました。

内容は、祭礼文化で強い絆で結びつく横須賀のまちと人々の歴史的背景とその絆の強さの説明と、その後の新型コロナウイルス感染症が地域に与えた深い傷と住民の苦悩の話がありました。しかし、打開策としてウイズコロナへの若者たちの挑戦が始まり、「おまつり」実施のための対策マニュアル「横須賀モデル」の作成と、その検証実験の紹介がありました。

このような若者の活躍は、住みよいまちづくりを目指す川原町地区の前向きな姿勢が背景にあり、新たに企画・実施した「川原町公式ライン(防災)の実践」「内緒の打上花火大会の実施」「座談会～10年後の川原町を考える～の開催」等の取組は、「つながりづくり」の再検討・再構築のすばらしい実践と感心させられました。

最後に深谷氏は「川原町のこれから」と称して、多世代がつながる（交流する）場を大切にすること。若者世代の発想と受け止める環境づくりをしていくこと。

「地区まちづくり協議会」と連携を挙げられ、講演を締めくくりました。

大変有意義な講演会であり、地域に密着した実践例に多くのことを学ばせていただきました。

事例2 城北地区まちづくり協議会 工夫を凝らしたコンサート

掛川市城北地区まちづくり協議会の「ハロウィン青空コンサート」は、コロナ禍でも工夫を凝らし実施できたすばらしい事例です。前述の『令和4年度小笠地区社会教育委員研修会』でも、講師の渋江かさね氏から『新しいニーズ・困り感に向けた活動・学習』として紹介されました。

例年、城北地区では出演者やスタッフ観客合わせて300人程が集う「城北地区ふれあいまつり」が、城北小学校体育館で開催されていましたが、令和2年度は、大人数が屋内に集まることによるコロナ感染を懸念して開催が取り止められました。

しかし、どうにか出来ないものかと協議が重ねられ、「ハロウィン青空コンサート」というものが企画されました。

【主な工夫点】

① 作品展示会と音楽祭の同時開催をやめて、音楽祭のみに変更

作品展示会はどうしても屋内開催となり、まだ感染予防対策も確立されていない時期だったので取り止めとなりましたが、音楽祭については引き続き協議が重ねられました。

② 会場を、城北小学校体育館からふれあいセンター駐車場に変更

音楽祭のみの開催にあたり会場が検討された結果、屋内より屋外の方が感染予防

になると判断され、ふれあいセンター駐車場で行われることになりました。

③ 当日の様子を、YouTube で生配信

屋外とはいえ会場へ来ることをためらう地区民も多くいると考えられ、自宅で気軽に鑑賞できるように、当日のコンサートの様子が YouTube で生配信されました。視聴できる URL を載せたチラシが全戸配布され、その後もいつでも見られるようにアーカイブに残されました。

④ 舞台や観客席にも気遣い

ふれあいセンターに併設されているウッドデッキテラスを舞台としてこれらが行われ、観客は駐車場に間隔を空けて並べた椅子に座って鑑賞しました。駐車場隣にある城北町公園からの鑑賞も自由とされ、大人数の来場にも対応できるようにされました。

このように様々な工夫が凝らされ、掛川吹奏楽団の演奏会をメインに、城北地区の子供たちが参加したハロウィンファッションショーが行われました。

コロナ禍であっても、地区民の伝統的なつながりの場であるイベントを簡単に取り止めてはいけないという思いの下、出演者、観客、スタッフみんなが協力して新しい形を作り上げた事例です。

事例3 さいたま市の「ババラボ」 シニアが楽しく働ける場づくり

社会教育委員等が集まる『第 53 回関東甲信越静社会教育研究大会 山梨大会』ではさいたま市社会教育委員の桑原委員が代表を務める「ババラボ (BABA labo)」による、シニアが働く場づくり（できないことは増えるけど、できることがある。長生き時代における場づくり）の事例について情報収集しました。

【主な特長】

- 「BABA lab さいたま工房」を平成 23 年開設。民家を借用。子・孫・夫連れ可。曜日を限り稼働。定年しても楽しく働ける場、「コミュニティ+働ける場」を目指す。
- 30～90 歳の女性中心。多世代で手工芸品づくり。作ったものを売って給料に充てる仕組み。技術レベルは様々。スタッフが作業を細かく分け、皆で作る。運営を工夫。
- 集まる目的も様々。おしゃべりできるこの場が好き、一人暮らしのままで心配、若い単身世帯の親は、シニアに親子共々愛してもらえることが嬉しい等。

講師によれば、地域の特徴に合わせることが大切とのこと。シニアが個性を活かして働き稼ぐ仕掛けと、集まって楽しむ仕掛けが両立している事例です。

3 「つながり」に着目した地域社会の課題の整理

令和3年度の社会教育委員会の取組をもとに、「つながり」に着目した地域社会の課題を整理してみました。

- **地域社会におけるつながりの依存度の低下**

地域に住む人々の価値観が多様化し、自身の生活への在り方の追及が進む中で、余暇時間の過ごし方や生活におけるつながりについても、地域社会から範囲がより広がり、多様なつながりに移ってきています。さらに新型コロナウイルス感染症の影響で、地域社会における人と人との密接なつながりへの依存度が、低下してきているといえます。

- **生活の場である地域社会におけるつながりの大切さの実感**

コロナ禍や近年の大規模災害の発生などを契機に、生活面、地域社会におけるつながりの大切さを改めて認識することになってきました。生命・身体の安全・安心に関することや、生活における危機的状況への対応は、地域での「つながり」が基盤になることが求められています。

- **つながりを避ける傾向と多様なつながりの必要性**

核家族化、世帯規模の縮小、働き方の変化や生活様式が多様化等に伴う地域社会における日常的なかわりやふれあいの機会の減少、さらにコロナ禍等から、身近な地域社会におけるつながりを避ける傾向が見られます。それが、結果として、地域における人と人とのつながりの希薄化を進めているといえます。また、コロナを理由につなかりを避ける大人たちの姿は、子供たちにも影響を与えるかもしれません。

「つながり」をいくつも持つことで、その中で学び合い、高め合うことができ、自らの成長の可能性をより高め、次への挑戦への活力を得るなど、より豊かな生活を送っていくことが可能となります。

- **つながり方の多様化と特性の理解**

ICT 技術の進歩により、つながり方が多様化することとなった現在、状況に応じたつながり方の選択や、つながり方の特性を理解したコミュニケーションの取り方の選択も求められてきます。加えて、情報格差解消に必要な環境整備とリテラシー教育を適切に進めていく必要もあります。

- **つながりづくりのキーポイント**

一度途切れてしまった「つながり」を元に戻すには、かなりの時間と努力が必要です。その原動力となりえるものに地域の若者の力があると思われます。新しい発想で新しい取り組みを模索する若者に、既存の地域組織で後押しする動きが必要です。地域の将来を担う若者に「つながり」再構築を託すのもすばらしい取組です。

V 持続可能なまちづくりに向けた「つながり」づくりの活性化にむけて

キーワード

『 アフターコロナとウイズコロナ 「つながり」再構築のチャンス 』

テーマ実現（活性化）のための柱

- 人との「つながり」の価値を再確認する
 - ・ストレスを軽減できる
 - ・キャリアの見通しが持ちやすくなる
 - ・新たな挑戦を支えられる
 - ・自己有用感アップにつながる
- つながりをつくることで、自分が楽しむ。大人が楽しむ、子供も楽しむ
- 若者・女性を含めた多世代による地域のつながり再構築が大切
- ウイズコロナとアフターコロナ。ウイズコロナへの対応策も今は重要
- つながり格差を解消するために、個人と政策にできることがある

1 地域への期待

ワーキングで出された委員の意見

- ・地域の活性化、つながりづくりに「楽しむ」精神が必要。さらに女性たちの視点や活躍がポイント。楽しむ活動を通して、みんなが楽しみ自分も楽しむことが継続性を生む。
- ・学校活動に地域の方々が講師に来ると、子供の知らなかった一面が発見できる。
- ・祖父母も参加できるイベントがあれば皆で参加したいと思う家庭が、多くある。
- ・地区懇談会は、中学生が主体となり、高齢者と子供たちとのつながりができていたすばらしい活動。形を変えても存続してほしい。
- ・子育てを通じて大人同士が知り合う。そこから習い事や交通安全・防災などにつながっていく。子育てを起点に、つながりを再構築できたらいい。
- ・お祭りは地域の暮らしを安心安全にすることに役立ち、年代を超えての人と人のつながりが生まれる。その行事の歴史（いわれ）も含め伝統行事として受け継いでいきたい。3年間中止のブランクは大きい。伝承を途切れさせないためにも、それを埋める工夫がほしい。
- ・学校部活を地域部活に移行させる動きがある。地域で子供を見守り、育てる観点からも協力したい。

地域を持続可能な社会づくりの一つの起点ととらえると、ウイズコロナ・アフターコロナを見据えて、世代を超えたつながりを意図的に創っていく必要があると考えます。地域で行われてきた様々な行事は、自分の居場所づくりとなり、様々な相談ごとの解決の場ともなってきました。これからは行事の見直しや精選も必要でしょうが、地域のつながりづくりには「楽しむ」の精神が必要です。活動を通して自分も楽しむことが継続と新たな取組を生むこととなります。そこには、これから地域を担う若者の声や女性からの視点も取り入れることが大切です。新たな企画や改革案などは、既

存の地域の組織で取り上げ、丁寧な対話を経て実現にむけて動き出すことが大切です。

それが引き金となり、防災活動の充実や子育てが一段落した方の「子育て悩み相談会」など、家庭の地域とのつながりと地域への貢献を促す方策に広がります。

また、掛川市教育委員会が進めている学校部活動を地域部活に移行する計画には、子供がより充実した活動ができる環境を整備するためにも地域の協力が必要です。

2 学校・園への期待

ワーキングで出された委員の意見

- ・園や学校では、コロナの影響で保護者が施設内に来る行事が中止となっている。子供たちにコミュニケーション力をつけるためにも、また、保護者にコミュニケーションの場を与えるためにも工夫して実施してほしい。
- ・園、学校ではいろいろな行事を縮小しているが工夫すれば実施できる。行事の見極めが大切。学校行事にも地域の力をどう入れていくかもポイント。
- ・子供たちの未来のために、地域の方々と連携して行う社会課題解決型探究学習の導入が大切と感じる。
- ・家庭と地域のつながりの再構築で学校と保護者間のスムーズな連携ができると思う。
- ・掛川に就職する人も減ってきている。掛川にいるうちに、家庭の中を大切にして、つながりを保っていくことが大切。

掛川市中学校区学園化構想とは、各学園内の園・小・中（・高等）学校が連携を強化し、地域に根差した一貫性のある教育を実施するとともに、地域連携による園・学校支援活動などを通じて、市民総ぐるみでの教育活動推進を目指すものです。

地域のつながりを創る基盤として、子供にとっては、地域住民等とのふれ合いや豊かな体験によって、自己有用感が育まれ、地域の人と顔見知りになり、地域への関心・理解が深まり地域の担い手としての自覚が高まることが期待され、コミュニケーション能力が高まるとともに学習意欲も喚起されると思われます。

また、保護者にとっては、保護者同士や地域の人々とのつながり（人間関係）が再構築でき、家庭教育支援につながると考えられます。

学校再編計画の策定が発表されましたが、新たな学園づくりの基本方針にそって学園化構想の理念が継続できることを期待します。

令和4年4月に掛川市教育委員会学校教育課より発行された「かけがわ家庭の学びグランドデザイン」は、学校、家庭、地域が相互に連携して子供たちの学びを支えることができるように掛川市における家庭での学び（家庭教育）の在り方について、乳幼児教育・学校教育・社会教育からのアプローチを示しています。掛川の子供たちにどのような成長を促していきたいかイメージできるようになっており、各課（学校教育課・教育政策課・こども希望課等）の取組を総合的にまとめ、家庭の学びにつなげる内容となっています。保護者だけでなく、地域の方にも広く広報し、継続的に活用できるように適切な成長時期に合わせた積極的活用を期待します。

3 行政への期待

ワーキングで出された委員の意見

- ・コロナ終息後やウイズコロナではつながりの再構築がされると思うが、地域格差が生まれる懸念もある。行政の手助けも必要と思われる。
- ・家庭教育サポーターとして活動している。A I の時代だからこそコミュニケーションが大切。家庭教育力をアップさせるためにコロナへの対応策をしっかりと活動の幅を広げたい。
- ・地区防災事業は、人と人とのつながりが一番大切。さらなる充実を願う。

掛川市が推進している「地区まちづくり協議会」は、地域が主体となって地域力を結集し、地区の将来像について夢や地区にとって大切なことを語り合い、実施していく場を目指しています。新型コロナウイルス感染症の影響で様々な活動が中止となっている現在、ウイズコロナ・アフターコロナを見据えて、既存の活動の見直しや再構築が進められています。変化している今こそ、地域の方々の「つながり」づくりの観点が大切と考えられます。

様々な活動を通して地域で活躍している方々に、地域格差が生まれることの無いように、情報提供など行政の支援が必要と考えられます。

想定される内容としては、子育て支援の切れ目のないサポートと関係機関との連携、自助、共助、公助の地域のつながりが大切な防災活動への活動支援等です。

おわりに

今「私は人生を楽しんで過ごしている」と言える人はどれだけいるだろうか。楽しみとは人それぞれで、美味しい物を食べながらおしゃべりすること、祭りなどの地区の行事へ参加すること、スポーツや趣味のサークルで活動することなど多種多様である。日々の生活の中で楽しいと感じられることがあるのはとても大切で、各々工夫してその時間を作っていることだろう。ただ共通して言えるのは、楽しむ時間を過ごすために数年前までは特に考えること無く大人数で集まっていた、という事だ。共通の趣味嗜好をもった人たちが自然につながって集っていたのだ。

令和3・4年度掛川市社会教育委員会では、この人と人との「つながり」について協議を重ねてきた。人生を楽しむために欠かせないはずのこのつながりは、令和2年から本格化したコロナという流行病によって、いとも簡単に切れていってしまったからだ。祭りをはじめ地区の行事はことごとく中止となっており、隣近所との関りは希薄化し、大人数で食事をするのは悪とさえされたように思う。このようなことは趣味や娯楽だけではなく、職場や園学校でも同様だった。職場では出社を取り止めてリモート就業に変更したり、園学校では緊急事態宣言により数か月の休園休校を余儀なくされたりした。

世の中はこのまま個々で過ごす社会へと傾いていくのかと思われたが、一年ほど経つと、それまでの生活を取り戻すためにはどうすれば良いのかを、人々は画策し始めた。一か所に大勢が集うばかりがつながりの場では無いと、掛川市でもシークレット花火を打ち上げたり音楽祭をYouTubeで開いたりする地区が現れた。大きな声を出せない小学校では合唱の代わりに器楽合奏をし、社員や友人の交流の場である飲み会は自宅のパソコンの前となり、人々はどんどんと順応し始めたのだ。

何度もやってくるコロナの波に翻弄される中で、人々は周りとのつながりについて改めて考える機会が多かっただろう。もしかしたら人との関わりが無くなってほっとしている人もいたのかもしれないが、多くの人々はどうしたら今までの暮らしに戻れるのかと悩んでいた。しかし、どうあがいてもそれは無理な話で、そこで生まれた言葉が『with コロナ』だった。元の生活に全く戻そうとするのではなく、感染予防や代替案を考えながら出来ることをやっていこうというものだ。渋谷かさね氏の講演で紹介された、講座や話し合いをネット上で行うオンライン公民館や、なかなか一緒に食事をする事が出来なくなったこども食堂利用者たちによる文通などは、掛川市でもぜひ参考にしていきたいものである。

たとえコロナ禍であっても、人生を楽しく過ごすために何ができるかを模索していく必要がある。人間は考える葦であるという言葉があるが、まさに今が知恵を試されているときなのかもしれない。

今期の答申をあげるにあたり、コロナの影響の話題を外すことはできなかった。社会の仕組みや意識をまるで変えてしまったほど、大きな影響を与えたものだったからだ。

だがいつかこの答申を読み返した時に、ああこの頃は大変だったなあと思えて笑い話になっていて欲しいと思うし、早くそんな時期が来ることを心から願っている。

令和3年度 掛川市社会教育委員会活動報告

1 第1回社会教育委員会

- (1) 日 時 令和3年6月30日(水) 午前9時30分～
- (2) 会 場 掛川市立中央図書館 会議室
- (3) 出席者 委員13人、事務局5人(教育長他)
- (4) 内 容
 - ①委嘱書交付
 - ②教育長あいさつ
 - ③委員自己紹介
 - ④教育委員会事務局紹介
 - ⑤社会教育委員制度について (説明事項)
 - ⑥教育委員会主要事業について (")
 - ⑦社会教育委員の活動について (")
 - ⑧正・副委員長の選出について (協議事項)
 - ⑨令和3・4年度社会教育委員会事業計画(案)について (")
 - ⑩各種委員の選出について (")
 - ⑪研究テーマについて (")
 - ⑫総会・研修会等スケジュールについて (連絡事項)

2 小笠地区社会教育連絡協議会研修会

- (1) 日 時 令和3年7月30日(金) 午後1時～
- (2) 場 所 御前崎市佐倉地区センター
- (3) 出席者 委員7人、事務局4人(教育長他)
- (4) 内 容 講演「地域住民との協働による社会教育の推進
～各地の実践事例に学ぶ～」
静岡大学 イノベーション社会連携推進機構
地域連携生涯学習部門 教授 阿部 耕也 氏

3 第2回社会教育委員会(会場開催から書面開催へ変更)

- (1) 日 時 令和3年8月26日(木)
- (2) 内 容 意見収集
(大切にしたいつながり、無くさないために必要なこと、広げる方法等)

4 中部地区社会教育委員連絡協議会合同研修会(オンライン開催)

- (1) 日 時 令和3年10月22日(金) 午後2時～
- (2) 会 場 掛川市教育委員会室(zoomによるオンライン中継。メイン会場:御前崎市)
- (3) 出席者 委員3人、事務局1人
- (4) 内 容
 - ①社会教育功労者紹介
(被表彰者:鈴木緑元委員長、勝田隆雄元副委員長、高橋篤仁元委員、
馨敏郎元委員、鈴木将介元委員)
 - ②地区社会教育委員研修会報告
 - ③講演「社会教育の意味と社会教育委員の役割」
青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授 鈴木 眞理 氏

5 第 63 回全国社会教育研究大会石川大会（オンライン開催）

- (1) 日 時 令和 3 年 10 月 28 日（木）
- (2) 会 場 委員自宅ほか（zoom によるオンライン中継。メイン会場：小松市）
- (3) 出席者 委員 4 人、事務局 1 人
- (4) 内 容 ①事例発表
②開会行事・表彰式
③記念講演「御御御付けと腸を考える」
株式会社ヤマト醤油味噌 代表取締役 山本 晴一 氏
④シンポジウム「人びとが豊かに暮らすまちづくりを目指す 新たな学び」

6 第 3 回社会教育委員会

- (1) 日 時 令和 3 年 11 月 10 日（水）午後 1 時 30 分～
- (2) 会 場 大東北公民館 2 階集会室
- (3) 出席者 委員 14 人、事務局 3 人
- (4) 内 容 ①意見集約シート（「つながり」について）の感想（協議事項）
グループ別意見交換、全体交換
②意見の整理（ 〃 ）
なぜ、つながりは大切なのか（提言の柱となる事柄）
③見たり聞いてみたい活動・団体（調査対象の選定）（ 〃 ）

7 第 52 回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会（冊子配布）

- (1) 日 時 令和 3 年 11 月 11 日（木）
- (2) 会 場 東京都府中市 府中の森芸術劇場
※県境を越える移動の制限のため都内在住者のみ参加。
- (3) 内 容 ①記念講演「みんながつくるく社会」へ
～人生 100 年、A I、そしてポストコロナ時代の社会教育～
東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤 氏

8 長泉町社会教育委員会オンライン視察対応（オンライン開催）

- (1) 日 時 令和 3 年 11 月 19 日（金）午後 1 時 30 分～
- (2) 場 所 掛川市教育委員会室
- (3) 出席者 委員 2 人、事務局 1 人
- (4) 内 容 ①地域学校協働活動における特徴的な取組みについて
②掛川市社会教育委員会における調査研究・提言について

9 「かけがわ教育の日」（WEB 開催）

- (1) 日 時 令和 3 年 11 月 20 日（土）から翌 3 月 31 日まで公開
- (2) 内 容 テーマ「家庭、地域、園・学校のつながりについて考えよう
～市民総ぐるみで子どもを育てるために～」
授業、部活動、家庭（保護者）、地域等 5 分野の事例紹介。多数の
動画によって、現在の園・学校の様子の紹介。

10 静岡県社会教育委員研修会

- (1) 日 時 令和4年2月9日(水) 午前10時～
- (2) 会 場 委員自宅ほか(zoomによるオンライン中継。メイン会場：三島市)
- (3) 出席者 委員2人、事務局1人
- (4) 内 容 講演「いのちを守り災害に強い地域をどう耕すか
～いま社会教育・生涯学習ができること～」
福島大学 特任教授 天野 和彦 氏

11 第4回社会教育委員会(1月から開催延期)

- (1) 日 時 令和4年3月9日(水) 午前10時～
- (2) 会 場 大東北公民館 2階集会室
- (3) 出席者 委員6人、事務局2人
(コロナ感染拡大防止のため出席任意にし、収録したDVDを後日配布)
- (4) 内 容 ①講演「祭りとともに『まち』を支える若者たち」
三社祭礼囃子保存会 会長 深谷 義弘 氏
②質疑応答

令和4年度 掛川市社会教育委員会活動報告

1 第1回社会教育委員会

- (1) 日 時 令和4年6月10日(火) 午前10時～
- (2) 会 場 掛川市教育委員会2階 会議室
- (3) 出席者 委員13人、事務局5人(教育長他)
- (4) 内 容
 - ①委嘱書交付(新任委員)
 - ②委員長あいさつ
 - ③教育長あいさつ
 - ④委員自己紹介
 - ⑤教育委員会事務局紹介
 - ⑥社会教育委員制度について(説明事項)
 - ⑦令和4年度教育委員会主要事業について(説明事項)
 - ⑧令和4年度社会教育委員会事業計画(案)について(協議事項)
 - ⑨各種委員の選出について(協議事項)
 - ⑩研究テーマ「持続可能なまちづくりに向けた「つながり」づくりの活性化について」(協議事項)
 - ⑪総会・研修会等スケジュールについて(連絡事項)

2 静岡県社会教育委員連絡協議会総会・研修会

- (1) 日 時 令和4年6月23日(木) 午後1時30分～
- (2) 場 所 あざれあ(静岡市)
- (3) 出席者 委員長、事務局1人
- (4) 内 容 総会
全体研修会「福祉文化実践50年”教育と福祉の融合”のプロセスを探る」
静岡福祉文化実践研究所 所長 平田 厚 氏

3 小笠地区社会教育連絡協議会研修会

- (1) 日 時 令和4年7月29日(金) 午後1時30分～
- (2) 場 所 菊川市菊川文化会館アエル
- (3) 出席者 委員6人、事務局2人
- (4) 内 容 講演会「アフターコロナの地域活動と社会教育委員」
静岡大学教育学部 准教授 渋谷 かさね 氏

4 第2回社会教育委員会

- (1) 日 時 令和4年8月5日(金) 午前9時30分～
- (2) 会 場 掛川市教育委員会2階 会議室
- (3) 出席者 委員10人、事務局3人
- (4) 内 容
 - ①委嘱書交付(新任委員)
 - ②小笠地区社会教育連絡協議会研修会 講演の振り返り(報告事項)
 - ③答申後半部における「つながり」づくりの活性化に向けた提言の検討(協議事項)
 - ④その他答申骨子草案の検討

5 第3回社会教育委員会

- (1) 日 時 令和4年10月18日(火) 午前9時30分～
- (2) 会 場 掛川市教育委員会2階 会議室
- (3) 出席者 委員13人、事務局3人
- (4) 内 容 ①答申後半部における「つながり」づくりの活性化に向けた提言の検討
グループ別・全体意見交換(協議事項)
②コラムとして挿入したい関連事例
③その他箇所の検討

6 中部地区社会教育委員連絡協議会合同研修会

- (1) 日 時 令和4年10月21日(金) 午後2時～
- (2) 会 場 島田市しまだ音楽広場び〜ファイブ
- (3) 出席者 委員2人、事務局2人
- (4) 内 容 ①社会教育功労者表彰
②地区社会教育委員研修会報告
③講演会「大井川川越遺跡について」
島田市観光文化部博物館課 主任学芸員 朝比奈 太郎 氏

7 島田市社会教育委員会視察対応

- (1) 日 時 令和4年11月8日(火) 午後1時30分～
- (2) 場 所 大須賀中央公民館
- (3) 出席者 委員2人、事務局2人
- (4) 内 容 島田市社会教育委員会の調査研究テーマ「島田市における公民館の今後の在り方について」に関連した他市町の公民館活動の調査
①大須賀中央公民館の活動紹介
②両市社会教育委員の意見交換

8 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会

- (1) 日 時 令和4年11月10日(木)～11日(金)
- (2) 会 場 甲府市総合市民会館、防災新館
※ 会場参加、ライブ配信視聴の2手法にて開催
- (3) 出席者 委員3人、事務局2人
- (4) 内 容 ①記念講演「夢の実現 ～努力は裏切らない!～」
元ソフトボール女子日本代表監督 宇津木 妙子 氏
②シンポジウム
テーマ「新たな生活環境の中での社会教育のあり方を考える
～社会的包摂に向けた社会教育の果たす役割～」
③分科会 第4分科会「人生100年時代の学びのあり方
～豊かな人生をおくるための生涯学習のすすめ～」

9 「かけがわ教育の日」

- (1) 日 時 令和4年11月19日(土) 午前9時30分～
- (2) 会 場 掛川市生涯学習センター ※ 会場参加、WEBの2手法にて開催
- (3) 出席者 委員14人、事務局5人(教育長他)
- (4) 内 容 テーマ「創ろう! 私たちのミライ～変わるもの変わらないもの～」

会 場：我が家の“宝もの” 優秀作品発表、表彰
基調講演「豊かなスポーツライフを実現するために
～監督が怒ってはいけないバレーボール大会を企画した理由～」
元バレーボール日本代表 益子 直美 氏
かけがわお茶の間宣言
WEB：我が家の“宝もの” 作品情報
我が園・校の“宝もの”（各園・校作成の特色・自慢紹介動画）
県立学校紹介動画 他

10 第4回社会教育委員会

- (1) 日 時 令和5年1月31日（火）午前9時30分～
- (2) 会 場 掛川市教育委員会2階 会議室
- (3) 出席者 委員11人、事務局3人
- (4) 内 容 ①中部地区社会教育委員連絡協議会合同研修会について（報告事項）
②島田市社会教育委員会視察対応について（報告事項）
③第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について（報告事項）
④「かけがわ教育の日」について（報告事項）
⑤令和5年二十歳の集いについて（報告事項）
⑥人権講演会について（報告事項）
⑦答申案の検討（協議事項）
⑧答申概要資料の検討（協議事項）

11 社会教育関係者研修会

- (1) 日 時 令和5年2月21日（火）午前9時45分～
- (2) 会 場 静岡県男女共同参画センターあざれあ（静岡市）
- (3) 出席者 委員2人、事務局2人
- (4) 内 容 講演「みんなのしあわせをつくる社会
～これからの社会と社会教育委員の役割～」
東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤 氏

12 教育委員との意見交換会

- (1) 日 時 令和5年2月20日（月）午前11時30分～
- (2) 会 場 掛川市教育委員会2階 教育委員会室
- (3) 出席者 委員2人、教育委員4人、事務局5人（教育長他）
- (4) 内 容 答申要旨の説明、意見交換

13 第5回社会教育委員会

- (1) 日 時 令和5年3月3日（金）午後1時30分～
- (2) 会 場 掛川市教育委員会2階 会議室
- (3) 出席者 委員 人、事務局5人（教育長他）
- (4) 内 容 社会教育委員会から市教育委員会への答申提出
「持続可能なまちづくりに向けた『つながり』づくりの活性化について」

掛 川 市 社 会 教 育 委 員
任期2年（令和3年4月1日～令和5年3月31日）

【令和3年度】

（敬称略）

No.	役 職	氏 名	備 考
1	委員長	きんばら よしあき 金 原 義 明	学識経験者
2	副委員長	あさい まさこ 浅 井 正 子	社会教育関係者
3	委 員	みねおか しんご 嶺 岡 慎 悟	学識経験者 (市議会文教厚生委員長)
4	委 員	やまざき みよこ 山 崎 美代子	社会教育関係者
5	委 員	おおたに みか 大 谷 美 佳	社会教育関係者
6	委 員	むらた けいこ 村 田 敬 子	社会教育関係者
7	委 員	みうら はるお 三 浦 治 雄	社会教育関係者
8	委 員	すずき つとむ 鈴 木 勉	社会教育関係者 (スポーツ協会選出)
9	委 員	ながた としお 永 田 稔 男	社会教育関係者 (文化協会選出)
10	委 員	みやいし しんじ 宮 石 慎 治	社会教育関係者 (青年会議所 シニアクラブ選出)
11	委 員	さくらい ひろあき 櫻 井 宏 明	学校教育関係者 (高等学校長代表)
12	委 員	おかもと あつこ 岡 本 敦 子	学校教育関係者 (校長会選出)
13	委 員	やましろ まゆみ 山 城 まゆみ	学校教育関係者 (園長会選出)
14	委 員	おかだ ひろつぐ 岡 田 博 次	学校教育関係者 (市P連選出)
15	委 員	しんば たけし 榛 葉 武 史	学校教育関係者
16	委 員	おおい ひろみ 大 井 弘 美	家庭教育関係者

【令和4年度】

（敬称略）

No.	役 職	氏 名	備 考
1	委員長	きんばら よしあき 金 原 義 明	学識経験者
2	副委員長	あさい まさこ 浅 井 正 子	社会教育関係者
3	委 員	みねおか しんご 嶺 岡 慎 悟	学識経験者 (市議会文教厚生委員長)
4	委 員	やまざき みよこ 山 崎 美代子	社会教育関係者
5	委 員	おおたに みか 大 谷 美 佳	社会教育関係者
6	委 員	むらた けいこ 村 田 敬 子	社会教育関係者
7	委 員	みうら はるお 三 浦 治 雄	社会教育関係者
8	委 員	すずき つとむ 鈴 木 勉	社会教育関係者 (スポーツ協会選出)
9	委 員	ながた としお 永 田 稔 男	社会教育関係者 (文化協会選出)
10	委 員	みやいし しんじ 宮 石 慎 治	社会教育関係者 (青年会議所 シニアクラブ選出)
11	委 員	くれまつ かずき 榑 松 一 樹	学校教育関係者 (高等学校長代表)
12	委 員	さわざき しのぶ 澤 崎 忍	学校教育関係者 (校長会選出)
13	委 員	つのがい のりこ 角 皆 紀 子	学校教育関係者 (園長会選出)
14	委 員	すぎうら たかひろ 杉 浦 貴 公	学校教育関係者 (PTA選出)
15	委 員	しんば たけし 榛 葉 武 史	学識経験者
16	委 員	おおい ひろみ 大 井 弘 美	家庭教育関係者